



※SAFFは「Statistics of Agriculture, Forestry and Fisheries」を表現しています。

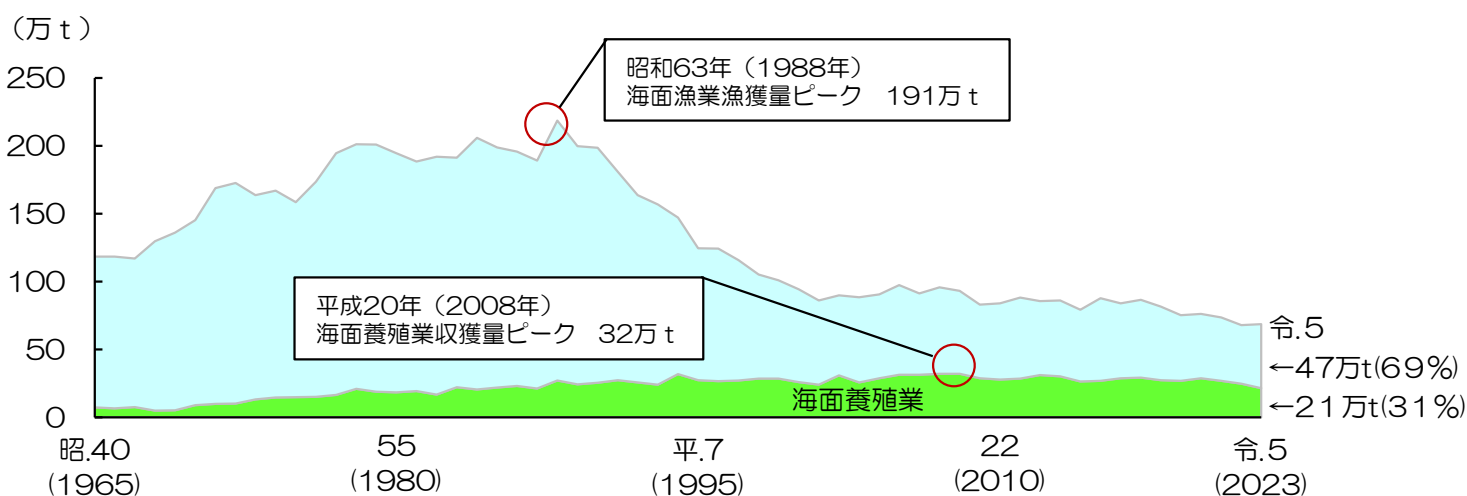
統計でわかる！ Vol.2 令和6年7月

九州の漁業



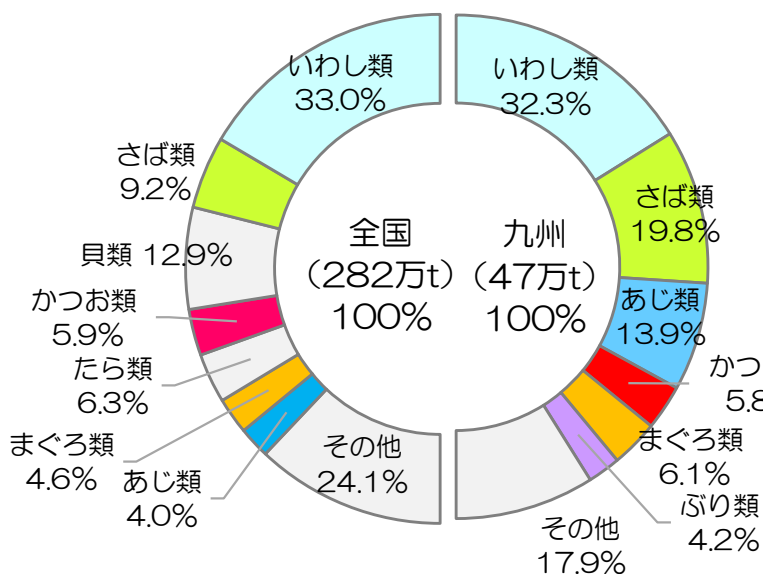
九州の海面漁業の漁獲量は、昭和63年にピークを迎え、それ以降は減少傾向で推移しています。一方、海面養殖業の収穫量は、昭和40年代から緩やかに増加して以降、一定量を維持し続けていますが、海面漁業の漁獲量が減少しているため、相対的に海面漁業・養殖業全体量に占める割合が増加しています。

■ 九州の海面漁業漁獲量と海面養殖業収穫量の推移

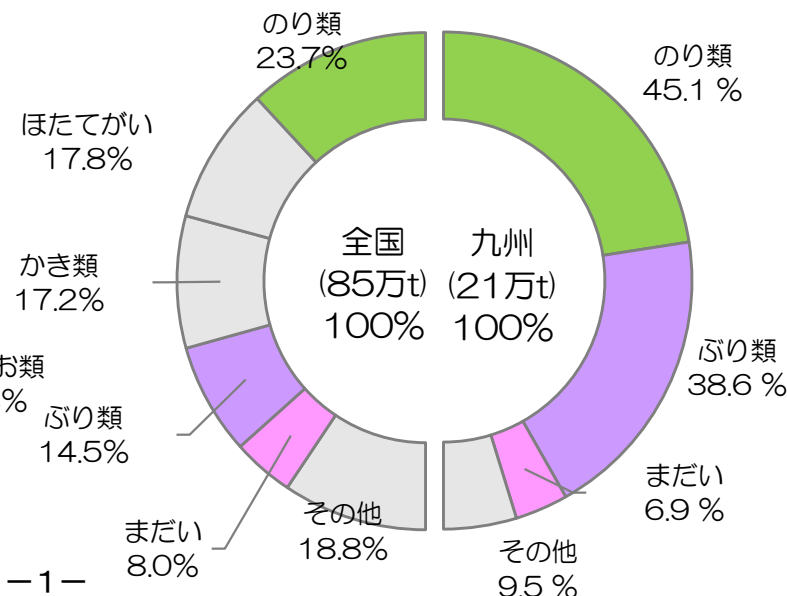


九州における海面漁業の魚種別漁獲量は、「あおざかな」といわれる「さば類」「いわし類」「あじ類」の3魚種で全体の60%以上を占め、全国における割合より高い割合となっています。同様に海面養殖業をみると「のり類」の収穫量が最も多く45.1%を占め、次いで「ぶり類」が38.6%を占めています。

■ 全国と九州の海面漁業の魚種別漁獲量割合 (令和5年)

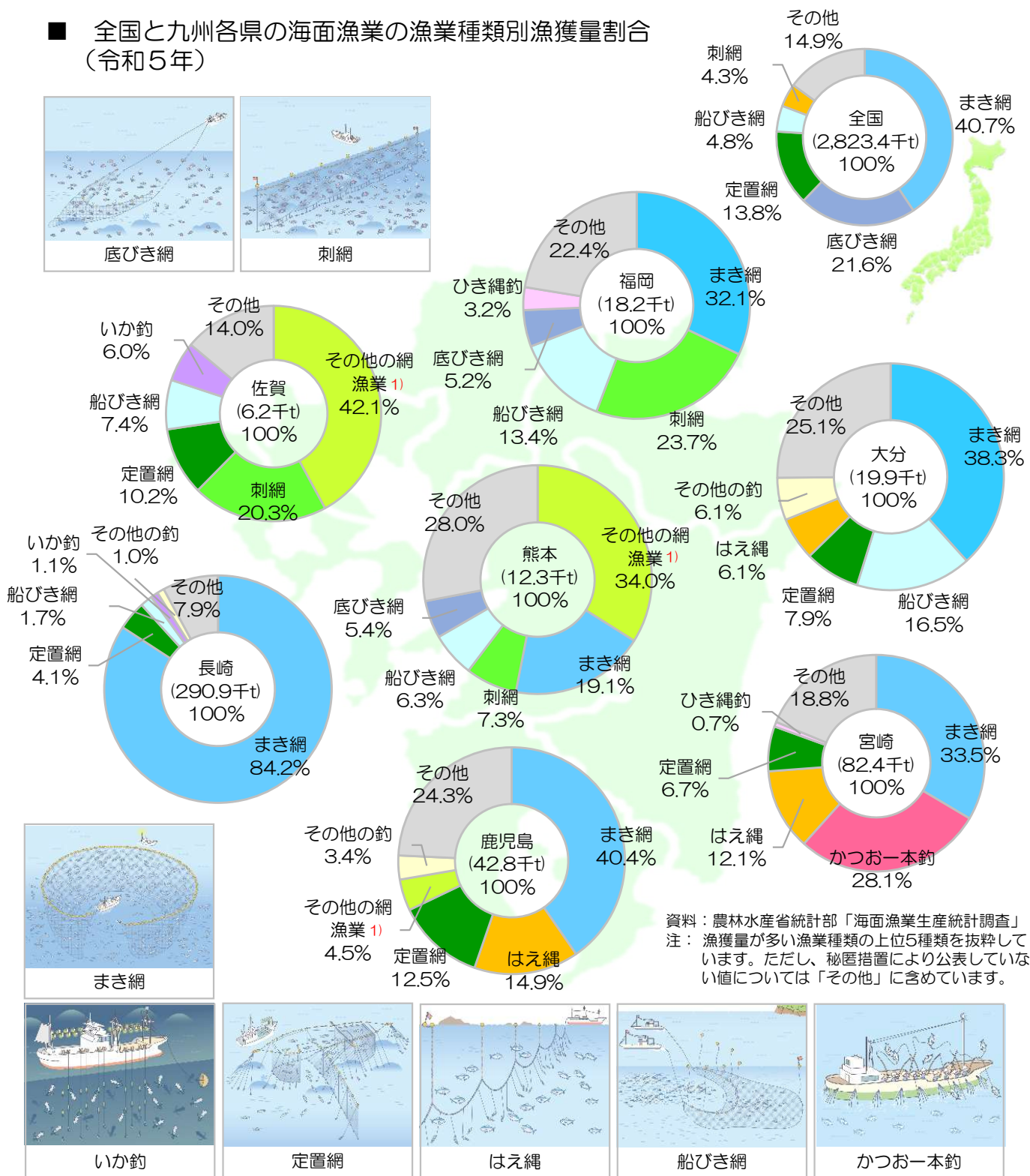


■ 全国と九州の海面養殖業の魚種別収穫量割合 (令和5年)



漁業には多くの漁法（漁業種類）があり、その中でも「さば」、「いわし」、「あじ」等の群れを包み込んで獲る「まき網」の漁獲量が、全国・九州ともに大きな割合を占めています。
また、「かつお一本釣」は宮崎県で、まぐろ類などを獲る「はえ縄」は鹿児島県・宮崎県・大分県の3県で割合が高くなっています。

■ 全国と九州各県の海面漁業の漁業種類別漁獲量割合（令和5年）



注：1) 「その他の網漁業」とは、底びき網、船びき網、まき網、刺網、さんま棒受網及び定置網以外の網による漁業をいいます。このうち、佐賀県は主に「えび類」の漁獲を目的とした「投網」、熊本県は主に「うるめいわし」の漁獲を目的とした「棒受網」の割合が多くなっています。